

村田製作所 (コード 6981)

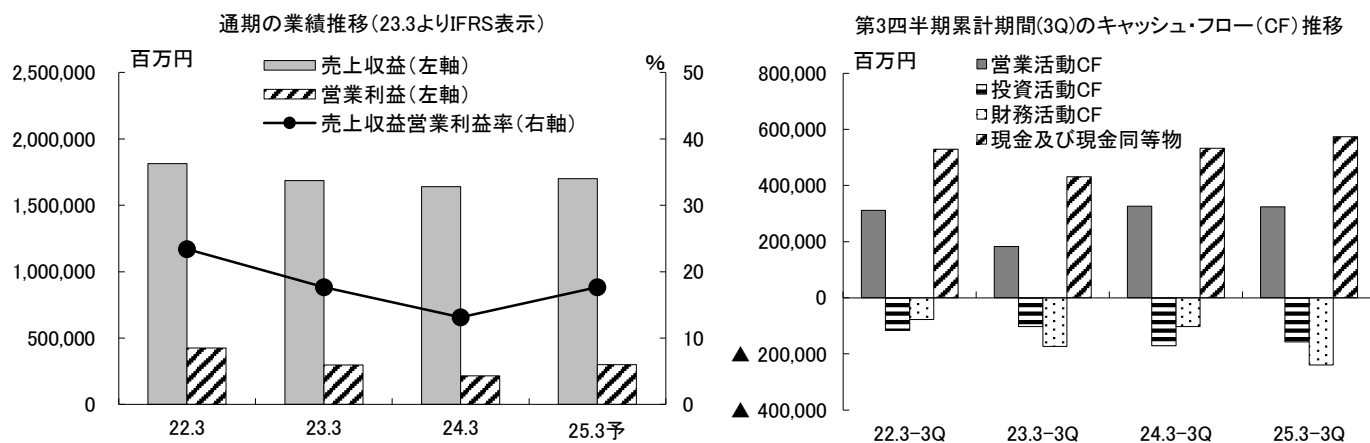
◆各決算期の第3四半期業績推移(連結) (24.3よりIFRS。23.3は遡及表示)

決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	1,339,202	279,029	112.1	—	185,985	▲99,450	▲180,457	430,871
24.3	1,249,744	215,119	92.4	—	325,969	▲171,178	▲102,705	533,025
25.3	1,331,489	234,161	107.6	—	323,542	▲156,961	▲239,802	573,705

◆通期業績推移(連結) (24.3よりIFRS。23.3は遡及表示。25.3予は会社側発表値)

決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	1,686,796	298,231	128.6	50.0	277,641	▲151,416	▲182,271	469,406
24.3	1,640,158	215,447	95.7	52.0	489,637	▲201,571	▲165,321	622,007
25.3予	1,700,000	300,000	124.4	54.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年3月期の第3四半期業績概況…25年3月期第3四半期累計期間(24年4~12月)は、積層セラミックコンデンサ(MLCC)が、AIサーバーなどITインフラ投資の拡大を背景としてコンピュータ向けに、AS/ADASの進展を背景としてモビリティ向けに伸びたほか、樹脂多層基板や高周波モジュールがスマートフォン向けにそれぞれ好調に推移。前年同期比で売上収益は約7%増え、円安効果や操業度の回復なども加わって、営業利益は約9%増えた。

当期の業績は、売上収益1兆3,314億8,900万円(前年同期比6.5%増)、営業利益2,341億6,100万円(同8.9%増)、税引前四半期利益2,685億5,700万円(同19.1%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益2,013億2,200万円(同15.4%増)となり、売上収益に対する営業利益率は17.6%(前年同期17.2%)に向上した。

受注高は1兆3,057億6,500万円(前年同期比8.8%増)で、事業セグメント別ではコンポーネント7,779億4,900万円(同12.5%増)、デバイス・モジュール5,196億6,200万円(同3.5%増)など。コンポーネントではコンデンサが6,251億1,700万円(同12.0%増)に、デバイス・モジュールでは高周波・通信が3,375億4,100万円(同1.2%増)、エネルギー・パワーが1,106億6,200万円(同4.3%増)、機能デバイスが714億5,900万円(同15.0%増)となった。また、期末の受注残高は2,844億2,300万円(前年同期末比1.9%減)で、事業セグメント別ではコンポーネント1,658億5,000万円(同6.2%増)、デバイス・モジュール1,149億2,900万円(同11.4%減)など。コンポーネントではコンデンサが1,358億8,400万円(同4.8%増)に、デバイス・モジュールでは高周波・通信が450億1,200万円(同21.4%減)、エネルギー・パワーが541

億 9,900 万円 (同 2.9%減)、機能デバイスが 157 億 1,800 万円 (同 5.7%減) となった。

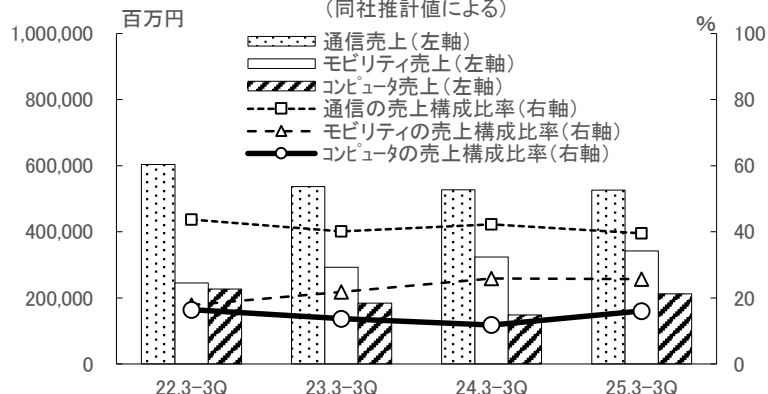
事業セグメント別の売上収益は、コンポーネント 7,829 億 4,900 万円 (前年同期比 11.9%増)、デバイス・モジュール 5,386 億 4,500 万円 (同 0.5%減) など、コンポーネントのうちコンデンサが 6,304 億 100 万円 (同 11.7%増) に、デバイス・モジュールのうち高周波・通信が 3,465 億 3,200 万円 (同横ばい)、エネルギー・パワーが 1,183 億 7,400 万円 (同 7.3%減)、機能デバイスが 737 億 3,900 万円 (同 9.7%増) など。コンデンサでは、MLCC がコンピュータ向けやモビリティ向けで増加した。高周波・通信では、スマートフォン向けにおいて、表面波フィルタやコネクティブリティモジュールが減少した一方、高周波モジュールや樹脂多層基板が増加。エネルギー・パワーでは、リチウムイオン二次電池がサーバー向けで増加したものの、ゲーム機向けなどで減少した。機能デバイスでは、コンピュータ向けにアクチュエータやセンサが増加した。また、用途別では、通信が 5,260 億 5,800 万円 (同 0.2%減)、モビリティが 3,424 億 7,500 万円 (同 5.9%増)、コンピュータが 2,126 億 9,900 万円 (同 43.6%増) などとなり、売上構成比率ではコンピュータ向けが 16.0% (前年同期 11.8%) へと大きく伸びた一方、通信向けが 39.5% (同 42.2%)、モビリティ向けが 25.7% (同 25.9%) に低下した。

営業利益については、同社推計で、合理化効果 (約 320 億円) や操業度益 (約 820 億円)、為替変動 (約 310 億円) などのプラス要因が、売値下げ (約 650 億円) などのマイナス要因を上回り、増益となった。また、事業セグメント別では、コンポーネント 2,192 億 8,800 万円 (前年同期比 22.7%増)、デバイス・モジュール 180 億 2,100 万円 (同 55.9%減) などとなった。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況について、当四半期末における現金及び現金同等物残高は 5,737 億 500 万円 (前年同期末比 7.6%増) となった。営業活動 CF は、四半期利益 2,005 億 6,700 万円 (前年同期比 15.1%増)、減価償却費及び償却費 1,288 億 2,000 万円 (同 1.7%減)、営業債権の増加額 292 億 8,800 万円 (同 22.9%減)、たな卸資産の減少額 326 億 5,500 万円 (同 54.4%減) などにより、3,235 億 4,200 万円の収入 (同 0.7%減) になった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 1,461 億 7,000 万円 (同 21.3%減) などにより、1,569 億 6,100 万円の支出 (同 8.3%減) に。財務活動 CF は、社債の償還による支出 500 億円 (前年同期は無し)、自己株式の取得による支出 800 億 500 万円 (同 900 万円)、配当金の支払額 1,015 億 8,100 万円 (前年同期比 7.5%増) などにより、2,398 億 200 万円の支出 (同 133.5%増) となった。

25 年 3 月期の通期業績見通し…25 年 3 月期の通期業績は、24 年 4 月 26 日の会社側発表値から変更されておらず、売上収益 1 兆 7,000 億円 (前期比 3.6%増)、営業利益 3,000 億円 (同 39.2%増)、税引前利益 3,130 億円 (同 30.7%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益 2,350 億円 (同 30.0%増) の見通し。1 株当たりの年間配当金は 54 円の予定。

用途別の通信、モビリティ、コンピュータの第3四半期累計期間売上推移
(同社推計値による)



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。